

おもしろいね！が、きっとみつかる

シニア世代の地域デビューを応援！
～アッティーヴォ～

attivo

みやシニア
活動センター
通信 vol.36
(令和元年7月発行)

地域の主役は、シニア世代！

6月20日に東京オリンピックのチケットの抽選結果が発表されました。ニュース番組のインタビューで「結果はどうでしたか。」との質問に「すべて落選。」の声を多く聞きました。もちろん当選の声はあるにはありましたが、私の周りでは「当たった。」という声は、一人も聞こえてきませんでした。

申し込んだチケットが全て当たれば、どんなに素晴らしいことか。ネットで検索すると、当然、正確な数字ではありませんし、正式に発表されている訳ではありませんが、「落選率95%以上」とあります。もちろん、これが最後ではありません。これから、色々な形で販売され、最終的には、周りにどっと当選者が出ることを楽しみにしたいと思います。

今回の36号については、宇都宮市に止まらず、日光市までの森林の保全に取り組んでいます「宇都宮市森林保全クラブ」の活動内容。そして、いけ花の奥深さに魅せられて大変な時期を乗り越え、これまでの成果を発表する作品展の開催を目指している依田美津子さん。最後に、シルバー世代の相談を受け、元気づける明るい肝っ玉スーパーウーマンであります田中克子さんをご紹介します。

それぞれの分野で、新たな目標を掲げ、ご活躍されている方々です。(肥後特派員)



- | | | |
|------------------|----|-------|
| ① 森林保全のボランティア | 高田 | 勝利さん |
| ② いけ花の奥深さに魅せられて | 依田 | 美津子さん |
| ③ 「健康の森」の我らの姉のお話 | 田中 | 克子さん |

「attivo (アッティーヴォ)」とは、イタリア語で「活動的な、行動的な」という意味です。

① 森林保全のボランティア 高田勝利 さん

取材：猶原特派員

平成15年8月に国立公園奥入瀬溪谷を散策中の人々が、突然落下してきた木の枝の直撃を受けて負傷するという事故がありました。公園を管理されている方々のご苦勞はいかほどかと知らされました。今回ご登場いただきますのは、利用者の皆さんが少しでも安全に、楽しく、遊んでいただけるように森林公園の保全に取り組んでおります「宇都宮市森林保全クラブ」の高田勝利会長です。



【高田勝利さん】

高田会長は定年退職後、宇都宮市の広報で森林公園のボランティア募集を知り、参加されたそうです。在職中から家庭菜園を行っていたこと、魚料理が好きで、美味しい魚を食べたい。そのためには森林の手入

れが大切なこと、森の荒廃が言われていたこと等により参加されたそうです。

当初は、市の職員とボランティアの参加者（約100名から150名）で年に数回活動されていました。大勢への案内、作業準備、作業内容の分担等、市の職員の負担を減らすために、有志の方と平成21年9月に「宇都宮市森林保全クラブ」を立ち上げ、現在まで会長としてご活躍されています。

主な活動は、宇都宮市森林公園 自然休養村管理センターを拠点に公園内の市有林・市有地の保全（草刈、間伐、植林、枯れ木の整理）、桜やもみじの管理、展望台周辺の手入れ、そして古賀志山登山道の枯れ木の整理等の作業を市農林生産流通課 森林整備・鳥獣対策グループや市森林組合と調整しながら行っています。管理センターから作業場所までの道具類の運搬、そして現場はヤブあり傾斜地ありで、作業も重労働です。また、最近では強風や大雨による倒木、松くい虫による松の枯れ木が増え、作業内容も変わってきており、現在は、刈払機とかチェーンソーを使わないと作業が進まないとのことでした。

このように、森林公園の豊かな自然環境を守り、多くの人に安心して楽しんでもらえるように日々活動されています。

高田会長はこのほか、「日光杉並木保全の文化活動」の一環として日光例幣使街道の道路清掃や草刈のボランティア活動を行っており、道路での作業は道幅も狭く、草が生い茂り、細心の注意が必要とのことでした。

さらに、きのこ栽培等を行い、畑の野菜と同様に試行錯誤しながら手間ひまかけて、将来大収穫できるように取り組まれています。

以上のようにボランティアを楽しみながら色々な地域で社会貢献されています。最近では街中にクマが現れたり、里山の農産物をイノシシ等に荒らされているとよく聞きます。山が荒れて、餌となる食料が減っていることも原因なのではないでしょうか。森林の再生に多くの方に取り組んでいただければと思いました。



【市森林保全クラブのメンバー】

② いけ花の奥深さに魅せられて 依田美津子さん

取材：石井特派員

「生活に潤いを」と、生け花に情熱を傾ける方の登場です。
毎週、清原地区市民センターロビーに花を生け続けている依田美津子さんです。
ちょうど生け終えたところでお話をお伺いしました。



【ロビーに飾った花と依田さん】

「好きな花を 好きなだけ 好きな花瓶に さして楽しむ」のモットーに惹かれ、「勅使河原和風会」のいけ花を始めたのは20歳の時。5年後に講師の資格を取得し、当時、上三川町の大企業に事務職として勤務し、福利厚生事業「はつらつライフプラン」の担当をしていたこともあり、事務本館ロビーや成人式会場への生け込み等のほか、社内華道部を立ち上げ、指導をしてきたそうです。出産を機に退職し、その後は、自宅で教えたり、地域公民館でのひな祭り等、四季折々の行事に合わせた生け花を指導。清原地区市民センターロビーにボランティアとして飾り始めて27年目になるそうです。

特に、東日本大震災で市民センターが避難所になった時は、ロビーの生け花を見た避難者から「心が落ち着いた。花によって心が慰められた。」との感謝の声が届き、うれしく感激したと同時に、生け花の持つ力を再認識したということです。地区や市民センターの文化祭では、希望者の発表の場として出品をコーディネートし、作品を飾り、祭りを盛り上げていらっしゃいます。

また、上三川町より「文化体験子ども教室」開催の依頼を受け、上三川町茶華道協会の先生方と一緒に日本の良き伝統文化であるお茶と生け花を、子どもたちに体験してもらい日本文化の良さを理解してもらおうと、上三川町立坂上小学校の6年生ほかに指導して7年目になるそうです。子供らしい斬新な生け花に出会い、感動することもしばしばとのこと。このような活動に対し、宇都宮市長から社会貢献活動者として感謝状も贈られました。さらに、指導者としての自己研鑽も怠らず、講師、参与を経て、今では総務を務めるとか。いけ花のほかに、書道、白磁ペイント、ハーセラーツ、フラワーアレンジメント等いずれも指導者級。

このような前向きな生き方には、子供の時に身に着けた物、食べた物などが、殆ど母親の手作りだったという母親の影響が大きかったとのこと。技術や資格を取得し、生かすようにとの母親の教えにより若いうちから編み物、着付け等の資格を取得したのだそうです。

しかし、大変な時期もあったとか。御主人の母親や御自分の両親の介護が重なった11年間。介護、子育て、ボランティアと息つく暇もないほどで、生き甲斐でもあったいけ花をやめたいと思ったこともあったそうです。それを乗り越え今に至り、続けてきてよかったとおっしゃいます。夢は、70歳になったら、今までに作り上げた色々な作品といけ花のコラボの作品展ができたらうれしいなとのこと。楽しみですね。ぜひ実現してください！

「好きなことができる幸福を感じつつ、ひいてはそれが心身ともに健康になるのでは」と前向きな依田さん。



【坂上小学校の伝統文化活動】
(子供体験教室)

③ 「健康の森」の我らの姉のお話 田中克子 さん

取材：肥後特派員

駒生町にある「とちぎ健康の森」は、県民の健康づくり、生きがいづくりの拠点です。また、ここには全国でも数少ない地域での社会活動やボランティア活動を行うシルバー世代を養成することを目的とした栃木県シルバー大学校中央校があります。

週1回の授業を受け、約50あるクラブ活動に参加している2学年約600人の学生、更にはそのOBなど、中央校関係者だけでも大勢のシルバー世代が毎日出入りしています。ここ「健康の森」で食事をとり、コーヒーを飲み、打合せをする、皆のたまり場となっているのが1階にある「レストラン ヨコハマ」です。今回は、このヨコハマの田中克子ママを紹介します。田中ママは皆の話し相手となり、相談を受け、皆を元気づける明るい肝っ玉スーパーウーマンです。豪快で姉御肌の田中ママが皆大好きです。ここに通う学生は、年代が年代だけに生活のことより健康のことが話題になります。ご主人や奥さんに言えないことでも、まずママに聞いてもらい、そして励まされ、元気を出して帰っていきます。悩んでいる皆に頼りにされ、元気を与えることが田中ママの役目です。



【ママはつらいよ】

お話を伺った5月30日は奇しくも田中ママの誕生日でした。田中ママは横須賀市の出身です。もうすっかり宇都宮の人間ですが、やはり小さい時の思い出に浸り、横須賀の街並み、青い海を懐かしむことがあるそうです。先日、旧姓の森永克子に戻ることができる小学校の同窓会の案内が来ましたが、残念ながら都合で行けなかったので、宇都宮名物？を同窓生に送ったそうです。ちなみに旧姓が森永なので、小学校時代のあだ名はキャラメル。

田中ママの趣味は「絵」です。若い時は本格的に絵の勉強もしました。今は忙しくてなかなか書くことはできませんが、それでもたまにはスケッチをしたり、絵手紙風にハガキに描き言葉を添えることもあります。もう一つの趣味が「酒」です。ビールとワインです。底なしです。そして「孫」、誰でもそうですが自分の子どもより孫がかわいい。メロメロです。そして信じられないことですが、田中ママには曾孫もいるそうです。更にメロメロです。

また、この情報誌35号で紹介した宇都宮の誇るジャズのビッグバンド「スウィングハード」の大ファンで、バンマスの吉原郷之典さんのファンでもあります。お店には、メンバーの塩田道雄さんが、よく見えるとのことでした。

取材中も店に来るシルバー大の学生がママに声をかけていきます。3時になりシルバー大の授業が終わると、更に多くの学生が店にやって来ます。田中ママは「お帰り、お疲れ様でした。」と一人一人に声をかけています。それが心地よく聞こえました。

それでも田中ママの中では、まだまだ不満で「ヨコハマ」を自分たちの店だと思ってほしいのです。商売抜きで皆がここで語り、ここで打合せを行い、ここでくつろぐ、そういう場として利用してほしいのです。今回の取材を通して田中ママのその思いが一番伝わってきました。本当に田中ママは自分と同年代の学生やOBのことをまず考え、学生の生きがい作りを手伝いたいということが、ひしひしと伝わってきました。

「ヨコハマ」は、10時から夕方5時まで営業しています。健康の森に行かれることがあったら是非寄ってみてください。そして、美味しいコーヒーを飲んでみてください。田中ママの元気な声が聞こえます。



【ヨコハマの店内】

○ 発行／編集 みやシニア活動センター（宇都宮市 保健福祉部 高齢福祉課）
住所：宇都宮市旭1丁目1番5号 宇都宮市役所2階 高齢福祉課D8窓口
電話：028-632-2368 ファクス：028-639-8575
ホームページ：https://www.city.utsunomiya.tochigi.jp